

平成28年度実施事業調査シート

■ 基本事項(事業の位置づけ)

No. 20	項目名	子育て応援ヘルパー派遣費			主要な施策の 成果 ページ	43	担当 部署	子ども家庭部 子ども家庭課
予算 科目	会計	1	一般会計	総合 計画 体系	分野	子ども・子育て		
	款	3	民生費		基本方針	地域ぐるみの子ども・子育て支援		
	項	2	児童福祉費		施策	子ども・子育て支援、ネットワークの充実		
	目	1	児童福祉総務費		当初予算における区分	新規施策・拡大施策・重点施策・その他		
事務事業	148	児童健全育成事業費			↑該当するものを○で囲んでください			

■ 事業概要(実施内容)

事業の背景	(事業開始の背景は?実施に至った経緯は?) 草津っ子サポート事業:家事・育児に負担や不安が生じる時期にある保護者の身体的・精神的負担の軽減を図る。 多胎児家庭ヘルパー派遣業務:多胎児を養育する家庭は、単胎児を養育する家庭と比べ、育児の負担および母体への負担が大きい。そのため、ホームヘルパーを派遣し、家事および育児支援を行うことで保護者の身体的・精神的負担の軽減を図る。
事業の対象	(事業の対象、範囲となる人や物は何なのか?) 草津っ子サポート事業:1歳未満の子どもがいる家庭が対象。 多胎児家庭ヘルパー派遣業務:日中支援者がいない多胎児を妊娠している妊婦および多胎児世帯(産前~1歳未満)。
事業の目的	(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか?) 子育て環境の安定と子育て世帯の孤立防止を図ることで、安心して子どもを産み育てることのできる環境づくりを促進する。
事業の内容 (取り組み)	(どういった仕事の内容を、どのような手法・やり方で実施したのか?) 草津っ子サポート事業:対象者に最大6時間分のヘルパー派遣利用券を児童手当申請時に配布し、派遣を希望する対象者が受託者に申し込む。 多胎児家庭ヘルパー派遣業務:派遣を希望する対象者が市に申請をし、派遣を決定する(最大120時間)。

■ 予算・決算状況

		当初予算の状況					決算の状況・実績					
内訳・詳細	【草津っ子サポート事業費】	4,262千円					【草津っ子サポート事業費】	201千円				
	○需用費(利用券付チラシ作成費)	23円×2,000枚×1.08=49,680円					○需用費(利用券付チラシ作成費)	19.5円×2,000枚×1.08=42,120円				
	○委託料	2,500円/h×1.08×6h×1,300世帯×20%=4,212,000円					○委託料	2,500円/h×1.08×59h=159,300円				
	【多胎児家庭ヘルパー派遣業務】	3,888千円					【多胎児家庭ヘルパー派遣業務】	463千円				
	○委託料	2,500円/h×1.08×120h×60世帯×20%=3,888,000円					○委託料	2,500円/h×1.08×171.5h=463,050円				
事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源		
予算・決算額	8,150	2,592		2,780	2,778	664	308		80	276		
前年度比												
◆「当初予算額」と「決算額」の増減理由(事業の進捗状況等)		予算編成時より実績数が減ったため。										
◆平成27年度事業費(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源	合計	国県	市債	その他	一般財源		
	0				0	0				0		

■ 事業所管部署による評価

	評価	項目	評価の理由・評価に関する説明
必要性	2	市民ニーズが高い	核家族が増える中、子育てに対する身体的および精神的負担をかかえる保護者に対して有効な支援と考えるが、利用者が少なかった。
	2	市の他の政策よりも優先的に実施すべきである	
	3	対象および内容が類似する事業がない	
妥当性	1	法令により実施することが義務付けられている	民間において類似するサービスがあるが、子育てへの不安や孤立化を防ぐため、利用しやすい制度である必要がある。
	2	法令に定められた市の責務を具現化して実施する事業である	
	3	上位計画に明確に事業が位置づけられている	
	2	国・県・民間の類似サービスと重複していない	
	3	市民の基本的生活の維持・確保に必要な事業、または内部事務である	
効率性	2	他の手法に比べて効率のよい事業手法である	利用者の料金負担は低く、また利用することにより、家事・育児の負担軽減に直接つながる。しかし、草津っ子サポート事業は国県の補助制度がないため、十分なニーズ調査や費用対効果の検証において事業の存続を検討する必要がある。
	4	コスト削減の余地はない	
	3	受益者一人当たりのコストは適正である	
	3	受益者負担や補助の割合に問題はない	
継続性	3	事業を継続することで、さらなる効果が見込まれる	利用者数が伸びなかった理由として、制度周知が十分とは必ずしもいえず、他部署と連携して制度の周知を強化することで、今後の事業の効果を図る。
	3	所期の目的を達成しておらず、引き続き実施する必要がある	
	3	社会状況の変化に対応した事業内容である	
成果	2	当該年度の事業目的を達成できた	利用者数が少なく、目標値を達成できなかったが、利用者の声として短時間でも手助けしてもらうことで気持ちの負担が軽くなったという意見から、潜在的なニーズがあると思われる。制度の周知の強化に取り組むとともに、事業の検証を行う。
	2	受益者の評価が得られている	
	2	費用対効果大きい	

↑ 次の4段階により該当する数値を記入してください。

(4.よく当てはまる。 3.おおよそ当てはまる。 2.あまり当てはまらない。 1.ほとんど当てはまらない。)

■ 事業実施効果および課題、将来展望

事業実施効果	<p>子育て応援ヘルパーの利用家庭では、育児に対する身体的な負担および精神的な負担の軽減を図り、子育て環境の安定と子育て世帯の孤立防止に繋げることができた。</p> <p>(利用実績) 草津っ子サポート事業 16世帯(59時間) 多胎児家庭ヘルパー派遣業務 2世帯(171.5時間)</p>					
事業に対する市民の意見、反応	<p>多胎児家庭ヘルパー派遣業務においては、1世帯あたりの利用実績から事業へのニーズが高く、子育ての負担が大きいことが認められた。</p> <p>すこやか訪問時の草津っ子サポート事業の案内では、具体的な使い道のイメージが伝わりにくく、身近なサポートとしてとらえにくいという意見があった。</p>					
事業の今後の課題、将来展望	<p>多胎児家庭ヘルパー派遣業務については、利用者のニーズに沿った充実した支援が行えるよう、事業の改善を行っていく。</p> <p>草津っ子サポート事業においては、利用対象者(特に母親)に対して制度の内容が十分伝わるよう、利用者の声を取りまとめたものを案内に取り込むなど、利用対象者が身近に利用しやすい状況を作り上げることで利用者数を増やしていく。</p>					
※平成29年度の予算措置	予算額(千円)	合計	国県	市債	その他	一般財源
		3,343	1,122		300	1,921
	28年度比	41%				
	積算根拠	<p>【草津っ子サポート事業費】 1,658千円 ○需用費(利用券付チラシ作成費) 38千円 (23円/1枚×1,500枚×1.08=37,260円) ○委託料 1,620千円 (2,500円/1h×1.08×6時間×100世帯=1,620,000円) 【多胎児家庭ヘルパー派遣業務】 1,685千円 ○委託料 1,685千円 (2,500円/1h×1.08×120時間×13世帯×40%=1,684,800円)</p>				

※ 当該事業が平成28年度に終了した場合は、当該事業に代わって措置した予算や関連予算を記載してください。